

112) 思い出に鍵^{かぎ}かけて

去りゆきし夢あかり 追いかけて冬景色
行く道はとざされて 春はまだ遠い空
寂しさを包むよに きっとまた春が来る
思い出に鍵かけて 過去の日は忘れよう

とめどなくあふれ出る この涙ぬぐわずに
春風にかわくまで 星空を見つめよう
伝説の占いに 運命をさがすとき
思い出に鍵かけて 過去の日は忘れよう

春霞 野にみちて 花はみな咲きそろろう
^{いま}未だ見ぬ恋人よ 美しき恋人よ
生涯の恋をして ひとときの酒に酔い
思い出に鍵かけて 過去の日は忘れよう

あたたかきそよ風よ なつかしき出逢いより
新しき恋模様 人はみな待っている
凍りつく寒さから 水仙の花咲きぬ
思い出に鍵かけて 過去の日は忘れよう

人生のためらいは ひとときの道草よ
思い出に鍵かけて 過去の日は忘れよう